

大自然・十勝！ ～地元&観光利用の両立を目指す拓殖バスの今後の展開～

北海道拓殖バス株式会社 業務部営業課 木川 陽介

① 拓殖バスって聞いたことない。どこの会社？

北海道の十勝と言えば…。黄色いバス「十勝バス」さんが有名ですが…。**赤いバス「北海道拓殖バス」**もあるんです。地元・十勝では、「拓殖バス」「拓バス」と呼ばれ、親しまれています。

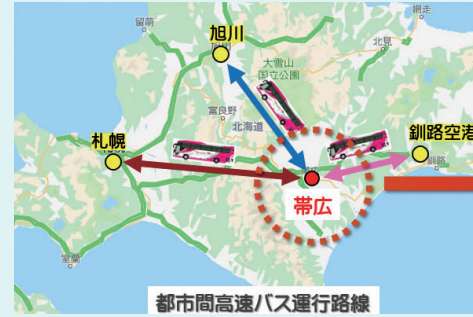


↑一般路線バス車両
赤いバス!



↑都市間高速バス車両
都市間・貸切バスはピンク色。

事業内容：乗合バス（一般路線バス・帯広空港連絡バス・都市間高速バス【帯広～札幌・旭川・釧路空港】）
貸切バス（一般貸切バス・スクールバス 千歳にも営業所あり）
特定バス（幼稚園送迎バス） タクシー（ワゴンタクシー）等
事業区域：帯広市を中心とした「十勝地方の北西部」を主に運行
1市6町（帯広・音更・鹿追・清水・新得・士幌・上士幌）



都市間高速バス運行路線



一般路線バス運行エリア

→大きなPRはこれまで行ってこなかった「地味…」な会社ですが、十勝の方々の日常生活の足・都市間移動の足として、長年地域によって支えられてきました。一般路線バスについては、ほぼすべての路線で、国・道・各市町等からの運行補助を受けて運行しています。

② 地味は地味なりに、拓殖バスはこれまで何やってきたの？

その他の事業者からすれば、大したことはないかもしれませんが…。

北海道初 自社でオープンデータ整備

北海道内のバス事業者では初となる、**自社作成**での「オープンデータ」を整備・公開
グーグルマップにもバス情報を自力で掲載

国交省推奨「GTFS-JP」形式でのオープンデータ
自社作成により柔軟なデータ変更・提供が可能。
臨時や運休等の突発的な情報追加・反映も容易。
→ 高機能で無償のダイヤ編成支援システム「その筋屋」を利用してデータを作成。



小学校へのバスの乗り方出張授業

帯広市と連携し、バス体験乗車・バスターミナルの見学等、**子供の頃から公共交通に興味を持ってもらう取り組みを実施**

一世帯に複数台の車所持が当たり前の十勝。バスや鉄道に乗ったことが無い方も多い。
→ 毎月第3日曜日、帯広市在住の小学生を対象に、帯広市内であれば無料で乗車できる取り組みも行っています。



「VISIT TOKACHI PASS」の通年販売

十勝エリア以外在住の旅行者および訪日外国人向け**1日 or 2日間乗り放題パス**（十勝バスとの共同販売）

破格値の**1日券 1,500円・2日券 2,500円**

十勝エリア内の一般路線バス・帯広空港連絡バスが乗り放題となる大変お得なチケット。

→ 郊外観光地の然別湖等、片道利用だけでもオトク!バスで周遊しやすくなっています。



観光スポットの発掘とバス停新設

地元の人には何の変哲もない風景、観光客には**絶景ポイント**。バス利用者増加に寄与

【例】音更町「白樺並木前」バス停の新規設置
→ 地元住民にも、地元の良さを再確認してもらえるきっかけになると考えます。



その他取り組み

高齢免許返納者のバス運賃半額制度（十勝バスと共同実施）
道東初のLCC「Peach 釧路～関空便」に接続する「スイーツライナー」運行開始 → Peachと連携したバス割引施策実施

上記は一例ではありますが、拓殖バスでも様々な各種取り組みを行ってきました。また、沿線の各自治体でも、バスマップ・バスの乗り方の配布（帯広市・音更町）、バスターミナル案内所整備（帯広市）等、「バス」の認知度をさらにアップさせる取り組みにご協力いただいています。自家用車の普及率が非常に高く、一家に複数台の自家用車所有が当たり前の十勝では、今後、自治体からの補助金ありきの運営・好調である都市間高速バス収入の内部補助頼みでは、「現状維持」ではやっていけないことは確かです。地味な田舎のバス会社ですが、色々手を広げるのではなく、アフターフォローができる範囲の「地に足がついた」取り組みを継続することが大切と考えており、各自治体ともさらに連携を取り、**地元&観光利用を融合させた利便性向上策（利用者増による路線維持）**で全体的な底上げを行っていきます。「拓バスは使いやすくて乗りやすい!」の声を目指して。

③ では、拓殖バスは今後どんな取り組みを考えているの？

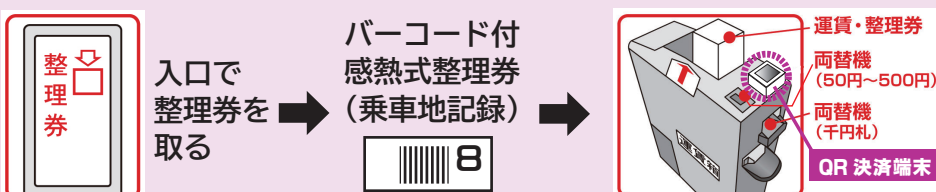
より乗りやすく、より実態に即したダイヤの再考を目指して。

QRコード決済端末の導入計画

現在、普及が急速に進んでいるQRコード決済について、当社**一般路線バス車内へのQR決済端末の設置**を計画しています。

お客様が車内に設置のQRコードを読み込み、自身で金額を入力して決済して運転手に提示する方式（ユーザースキャン方式）ではなく、お客様がスマホ等にバーコードを表示し、バス車内に取り付けられたバーコードリーダーをかざして決済する方式（ストアスキャン方式）とする。

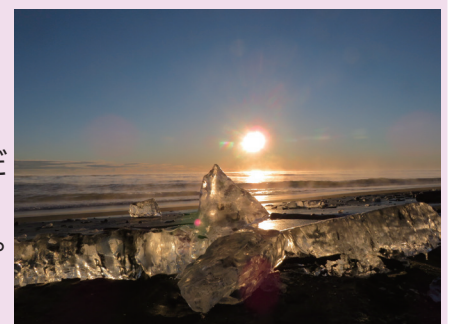
- 多区間にも対応。降車が比較的スムーズ、また、お客様の金額打ち間違い等のリスクなし。
- ICカード（特に10カード）導入はランニング・イニシャル費用が掛かり対応困難。QRコードであれば比較的安価に導入可能。セキュリティの問題が課題。
- 現金の持ち合わせや両替を気にしなくとも、気軽に乗りやすくなることにより、一人一人の利用頻度増加を目指す。



データを利用したバス路線の見直し

QRコード決済端末導入とともに、運賃箱の更新も進め、ご乗車一人一人の一件明細データを取得し、今後のダイヤ編成に活用。これまで特定日の流動調査のデータしか無かったこと、各自治体からの補助金の絡みもあり、「**小手先のダイヤ改正**」だけで**大規模なダイヤ見直し**ができていませんでした。その結果、実態に即したダイヤになっておらず、利用が敬遠されていた部分もあると考えます。一件明細データ（現金・回数券・定期券・QR等）の取得に伴い、よりお客様が求めているダイヤの検討を進めていきたいと思ひます。

- ご利用皆無・僅少区間の見直しとともに、路線新設や増便等が求められている部分への資源投入。各自治体と協議し検討。
- 「エリア論」があるのは当然。ただし十勝バスと歩み寄れる部分は協調してやっていかねばならない。「会社のために運行」<「お客様のために運行」を。



小さなバス会社だからこそ、計画からすぐ実行に移せる利点を活かして…。
お金は無いが、やる気があれば、費用を掛けなくとも、くらしの足を守るために何かできる!と考えています。